

優秀賞

まちなかにある小さな土壁の家

設計者： 一級建築士事務所 株式会社 Studio PRANA
 代表取締役 林美樹

建築概要
 建築面積 31.71㎡
 延べ面積 63.42㎡(1階 31.71㎡ 2階 31.71㎡)

■設計主旨

都内、19坪の敷地に建つ小さな土壁の家。

共働き夫婦二人のための住まいで、狭小ながらも東南に開けた敷地を活かし、外部とつながる空間づくりが設計のポイントとなっている。狭小敷地の北側斜線をかかわしながら、南東へ登る屋根形状とすることで空間に広がりをもたせた。

東京の材料を、東京の大工が手刻みで伝統的な継ぎ手仕口により、木部を全て現しとして組み上げた。構造が見えることは、木がもつ調湿や動きなどを妨げることなく、後々のメンテナンスの上でも有効である。手刻みの仕事は、日本の木造技術の継承でもあり、魅力ある仕事は若い大工職人を育てることに繋がっている。

また、調湿、蓄熱などの優れた性能をもつ土壁、手刻みによる木組みなどを実現するために、後日施工可能な内部仕上げ、建具などを先送りにするなどしてコスト調整をおこなっている。

構造物、下地材、仕上げ材、家具などすべて多摩産材を使用し、既成のキッチンなど以外一切合板は使用していない。

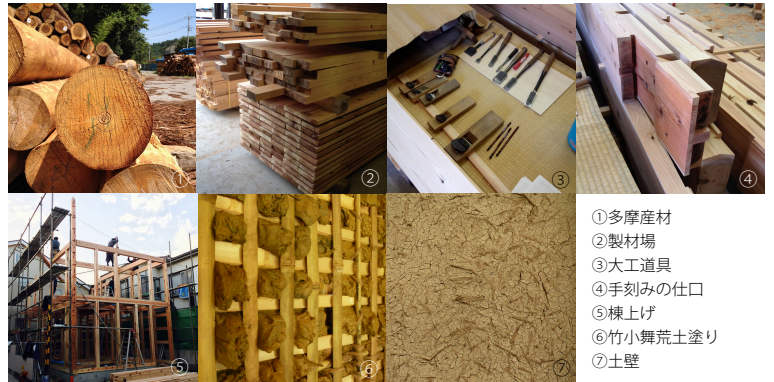
外壁も木材保護材のみ塗布した杉板で、自然な経年変化を楽しむ仕上げとなっている。

この住宅に限らず、出来るだけ土壁の工事の際に、竹小舞かきの作業をワークショップ形式で行うことにしている。これは、おとなも子どもも手仕事を楽しみながら家づくりを学び、地域でのひとの輪を広げることの一役買っている。

また、職人と住まい手の良好な関係こそが、世代を超えての維持管理、改修など住宅を丁寧に長く使ってもらふ鍵であると考えている。



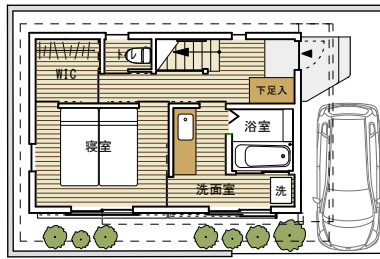
2F 居間(※)



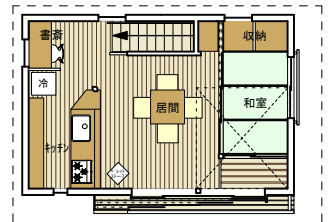
- ①多摩産材
- ②製材場
- ③大工道具
- ④手刻みの仕口
- ⑤棟上げ
- ⑥竹小舞荒土塗り
- ⑦土壁



2F キッチン/居間(※)



配置図/1階平面図



2階平面図

0 1m 2m 3m

■防火計画



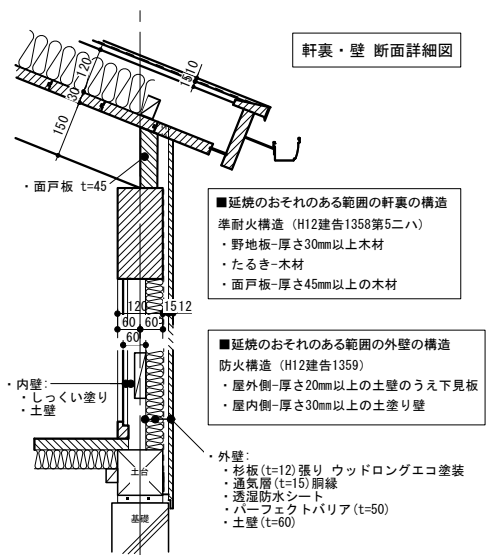
東側外観(※)

23区内の準防火地域に位置するため、外部は告示1359号により土壁50^φ以上及び木板12^φで防火構造を確保している。その他、軒裏、面戸なども告示1358号に準じた厚みを確保し、全て木部現しとした。



2F 居間開口(※)

建具に関しても、現在認定の取れている網入りのアルミサッシではなく、告示1360号により鉄板張りの雨戸によって防火設備としたため、バルコニーへの広い開口（4枚引戸）を設置することが可能となっている。



軒裏・壁 断面詳細図

■延焼のおそれのある範囲の軒裏の構造
 準耐火構造 (H12建告1358第5二八)
 ・野地板-厚さ30mm以上木材
 ・たるき-木材
 ・面戸板-厚さ45mm以上の木材

■延焼のおそれのある範囲の外壁の構造
 防火構造 (H12建告1359)
 ・屋外側-厚さ20mm以上の土壁のうえ下見板
 ・屋内側-厚さ30mm以上の土塗り壁

・外壁:
 ・杉板(t=12)張り ウッドロングエコ塗装
 ・通気層(t=15)銅線
 ・透湿防水シート
 ・ハーフェクトバリア(t=60)
 ・土壁(t=60)

(※)Photo by 砺波周平